JTEKT

2022 年 3 月期第 2 四半期決算説明会 質疑応答

2021 年 11 月 10 日
株式会社ジェイテクト

Q1.　事業利益の増減分析に関して、固定費のリバウンドを抑えられた理由は何か？

A1.　昨年から委員会を立ち上げて費用を絞ってきた。出費について厳しく目を光らせている。緊張感が全社に行き渡り、固定費のリバウンドを抑えることができた。

Q2.　材料、物流費の増加分については価格転嫁しやすいと思うが、価格政策の方針を聞きたい。

A2.　価格に反映したいとは思うが、世間の情勢等を踏まえて慎重に進めていきたい。

Q3.　費用削減等の体質は定着してきたと考えてよいか？

A3.　細かくみればまだまだ削減できる余地はある。もっとスリムでリーンな体質になるチャンスはあると考えている。

Q4.　産機・軸受の利益率が上がってきた。マージン改善の目線をどの程度と捉えているか。

A4.　固定費削減の努力を継続し、売上増の局面でも知恵を出すことによって増員せずに対応してきた。赤字からやっと黒字体質になってきたところであり、利益率の目標について述べられる状況にはない。今より上を目指してやっていきたいとだけ申し上げる。成長市場を捉えそこでどのように競合に打ち勝っていくか、バックキャストで描きながら進めていきたい。

Q5.　工作機械の戦略について、他社は自働化によってトータルソリューションを提案し差別化して単価を上げるという動きがあるが、ジェイテクトはマーケットの中でどのようなポジション、マージンを狙っているのか？

A5.　弊社の強みである円筒研削盤でニッチトップを目指す。円筒研削盤領域で圧倒的に競争力を持つ会社を目指して、グループ会社とのシナジーを活かした戦略を検討している。

Q6.　軸受・工作機械の今後の成長について期待してよいか。

A6.　EV 化が進むなど世の中が大きく変化しても軸受は残る。モノをつくる工作機械も残っていく事業であり、将来にわたって成長が期待できる事業だと考えている。

Q7.　今期の完成車メーカーの生産計画に対して上方修正の余地について教えてほしい。
また、ジェイテクトの収益計画に上方修正の余地があるか？

A7.　トヨタ自動車は細かく先の計画を伝えてくれるので予測がつくが、他のお客様は予測が難しい。

Q8.　トヨタ自動車の EV 車搭載のステアリング（ステアバイワイヤ）について、他社への製品の供給はあるのか？また、ステアリング製品の利益上昇の余地について教えてほしい。

A8. 個別の製品について弊社の製品かどうかについての言及は差し控えたい。ステアバイワイヤは期待している領域。EV 化、自動運転が進んできたときにオンリーワンの地位を確立することができれば利益を得られる製品だと考えている。

Q9. トヨタ自動車から駆動系部品を移管するという報道があったが、グループ内での位置づけがどう変わってくるのか、今後の変革についてどう考えているか。

A9. 新聞報道については、一部事実と異なることも書かれていた。トヨタ自動車が保有しているドライブシャフトと FF4WD 系の図面を移管していただいたというのは事実。今後は弊社が開発設計を行う。一方、人や工場の移管ついては事実ではない。将来的に任せていただけるのであれば大変光栄なことだと思っている。

Q10. FF4WD は長期的に仕事が減りデフなどが増えていくと想像するが、トヨタ G 他社との協業の可能性はあるか？

A10. トヨタ G としてどのような枠組みで進めていくのかがポイントであり、必要に応じて個々の会社同士で話し合っていく。将来を見据えたとき、何が起きてもおかしくない状況だと考えている。

Q11. ステアリングの収益性がコロナ禍前から頭打ちになっているがしばらく横ばいなのか。また、拡販ではなく、収益重視に軸足を移していく考えか。

A11. 当面は原価低減を徹底的に行い、並行して競争相手に対して十分に利益を確保しながら勝っていける商品を開発していくが、収益への効果が出てくるのは少し先になる。過去にはシェアを優先し利益率の悪いものも受注していたが、お客様に喜んでいただける良品廉価なものをつくれば、結果的にシェアも拡大していくと考えている。

Q12. 先行投資・先行開発を増やしていく時期はいつになるか？優先的にリソースを投入する事業分野はどこになるか？

A12. 来年あたりから積極的な投資をしようと考えている。成長分野、あるいは将来伸びるであろうと予想する分野に優先して投資するのが基本的な考え方。

Q13. 事業間のシナジーについて、ギヤビジネスや風力発電向けの軸受以外でどういった事例があるか？

A13. 生産ラインに他事業部のノウハウをいれるなど、細かい部分での協力などがある。

Q14. 注力するロボットの分野ではどういった貢献をイメージにしているのか？

A14. ロボットに使用されるギヤや軸受は、音・振動に対しての要求が増してくることが考えられ我々のノウハウが貢献できると考えている。

Q15. 工作機械の製造リードタイムについてどれ程の短縮を目指しているのか。

A15. リードタイムに対する従来の工作機械の常識に対して自動車部品の常識を組み合わせ、大幅な

短縮が可能になる。短納期希望のお客様に対して大変なアドバンテージになると考えている。

以　上